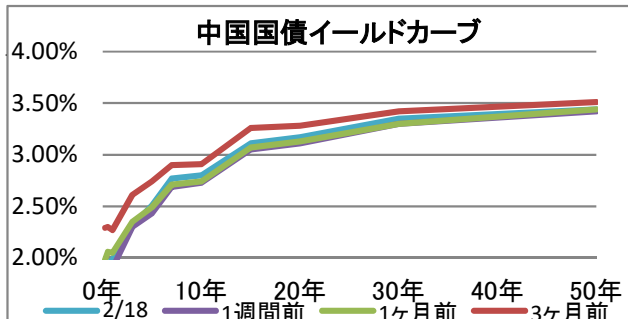
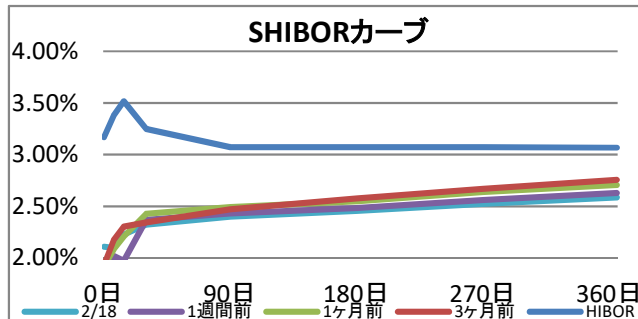


①市場概況

基準レート		2022/2/18	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	6.3343	-0.0338
	JPY/CNY	5.5146	0.0277
SHIBOR	3M	2.4000%	-0.0320%
国債利回り	10年	2.80%	+0.07%
上海総合指数		3,490.76	+27.81



(1) 概況

国際金融市場では、FRBの金融引き締め強度に対する見通しとウクライナ情勢に翻弄された週となった。FOMC議事要旨により過度な引き締め懸念が後退したものの、ウクライナ情勢の緊迫化からリスクオフの状況から抜け出せず、株式市場の上値は重く、債券が買い戻される展開が続いた。外国為替市場は膠着状態が続いている。

中国金融市場では、消費者物価の安定と緩和的な金融政策継続への期待感から、世界的な債券利回り水準の上昇やウクライナ情勢等の悪材料がある中、中国地方政府の不動産関連規制の緩和等を材料に、株式市場は続伸し、長期国債利回りは横ばいとなった。外国為替市場では、米中金利差縮小によるドル高期待はあるものの、春節後も根強い元買いニーズからドル安要因に反応しやすい状況が続き、対ドルでは6.32台まで買い込まれている。

中国では、習主席が社会主義法治体系建設の加速を呼びかけ、中国人民銀行の易総裁はアジア諸国と協力して貿易と投資における自国通貨利用の促進により地域経済強の靱化が実現可能との意見を表明し、SWIFTにおける決済資金に占める人民元のシェアは一段と高まり、1月も世界4位（日本円は5位）を維持し、中央結算公司における外国人による中国債券保有額も38ヶ月連続で増加している。証監会は解放を続ける証券基金の董事を含む人員管理法を發布し、2022年の監督方針として、市場化、法治化、債券市場インフラ整備、デフォルト抑制、公募Reit、債券市場統一等を掲げている。また、スタンダードチャータード銀行は、中国国外の外国銀行として初めてクロスボーダー銀行間人民元決済システム（CIPS）への直接参加資格が得られたことを公表している。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、リバースオペ期日1,000億元、MLF期日2,000億元の合計3,000億元に対し、新規リバースオペ500億元とMLF3,000億元（2.85%）の合計3,500億元を実施し、500億元を供給している。

(3) 主な経済指標

- ・CPI（1月）は、前年比+0.9%（12月、同+1.5%）と、2ヶ月連続で上昇幅縮小。これは、燃料費高騰を背景に交通通信費が上昇しているものの、食肉や野菜の価格が下落した食品価格の低下が続いていることによる。
- ・PPI（1月）は、前年比+9.1%（12月、同+10.3%）と、依然高水準ながら3ヶ月連続で上昇幅縮小。これは、消費財価格が安定する一方で、工業品価格が燃料や原料を中心に高水準の上昇が続いていることによるもの。在庫価格の上昇幅が購買価格を上回る状況も続いている。

②資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	2.1100%	1.9000%	2.0000%	
1W	2.0980%	4.0000%	2.1000%	1.8500%
2W	2.2270%	2.2800%	2.3000%	2.1000%
1M	2.3230%	2.5500%	2.3500%	2.1000%
3M	2.4000%	4.9500%	2.4000%	2.3000%
6M	2.4570%	3.2500%		2.3500%
9M	2.5240%	3.1000%		2.4200%
12M	2.5860%	3.7000%		2.5000%

MLFは大方の予想通り利下げはなかったものの、市場需給が良好な中での増額を中国人民銀行の緩和姿勢維持と受け止めている。資金市場では足元金利が1%台で推移し、ターム物の出合いは1ヶ月の2.3%前後での出合いを除き限定的ながら、SHIBORのターム物金利は低下を続け、3ヶ月が2.40%に、1年が2.58%台まで低下している。

NCDも、活発な取引は続いたものの金利水準は下げ止まっている。ターム物の金利水準は、1ヶ月が2.10%前後、3ヶ月物は2.25%～2.30%、6ヶ月が2.30%～2.35%、1年が2.45%～2.50%で取引されている。

(2) 米ドル資金（本土内）

	BID	OFFER
ON	0.10%	0.02%
1W	0.05%	0.06%
1M	0.10%	0.12%
3M	0.30%	0.40%
6M	0.60%	0.70%
12M	0.70%	0.75%

米国の金融引き締め懸念や国外からの投資資金流入の減少もあって金利水準は上昇。ターム物の金利水準は、1ヶ月が0.10%、3ヶ月は0.35%、6ヶ月は0.65%をそれぞれ挟んだ取引が続いているが、出合いは限定的。

③人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	1.83%	1.87%	2.28%	2.39%	2.61%
6M	1.94%	1.95%	2.34%	2.43%	2.70%
1Y	1.98%	2.08%	2.45%	2.47%	2.72%
3Y	2.31%	2.54%	2.74%	2.86%	3.49%
5Y	2.51%	2.75%	3.17%	3.30%	4.16%
10Y	2.80%	3.08%	3.57%	3.73%	4.61%

債券市場では、不動産業界に対する懸念が続く中で利下げ期待から利率債、特に短期に資金が集中していた状況から、不動産規制緩和と国際的な債券利回り上昇に加え、中国国債を中心に資金を投下する国外投資家の売りの増加により、区々の状況。利回りは10年国債が2.80%（前週比+0.07%）まで上昇する一方、信用債は短期債を中心に利回り低下している。

イールドカーブは、利率債が全期間に亘り上昇しているのに対し、信用債は短期が低下、中長期が上昇してスティープニングしていることから、クレジットスプレッドは長期では概ね変化がない中で短期では大幅に縮小している。

④先物為替市場

	USD / CNY
1W	45.5 / 47.0
1M	130.5 / 132.0
3M	358.0 / 361.0
6M	620.0 / 624.9
9M	840.0 / 845.0
12M	1030.0 / 1035.0

対ドル基準レートは6.3343と前週末比-338pipsのドル安元高、対円基準レートは5.5146と同+277pipsの円高元安と対ドルでは元高が一段と進んだ。米国の利上げによる金利差縮小を背景にドル高との見方が多く、国家外貨管理局元高官もこれを支持する発言をしているものの、実需の人民元買いニーズも依然強く、ウクライナ情勢やFOMC議事要旨等のドル安要因が出ると一段の元高となり6.32台で週末を迎えている。

先物は、人民元金利が小幅に低下する中、米ドル金利見通し変化により変動する状況が続き、1年物は1,000を挟んだレンジ取引が続いている。

⑤金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	2.13%		1.96%
6M	2.14%	2.45%	1.97%
9M	2.15%	2.46%	2.00%
1Y	2.16%	2.49%	2.02%
3Y	2.34%	2.72%	2.33%
5Y	2.54%	2.97%	
7Y	2.69%	3.13%	
10Y	2.85%	3.30%	

スワップ金利は、短期の基準金利が低下傾向となる中で中長期債券利回りが上昇したことから上昇したものの、上昇幅は限定的となっている。債券利回りとの金利差であるスワップスプレッドは債券利回りの上昇により縮小している。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しの書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入